

令和 5 年度 園評価書

園番号

45 園名

清水こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標		自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
意欲的に取り組む子	“やってみたい!”がいっぱい	自ら主体的に遊びを選択し、じっくりと遊ぶ	子ども達の興味に合わせて環境を整えた事で、自ら興味のあるものを選び、じっくりと遊ぶ姿が多い	A	A	・職員は子ども一人一人のやりたい思いに寄り添っていて、子どもたちの主体的な遊びへの参加が多く見られ素晴らしいと思った	保育者も一緒に遊び子どもの興味を捉え、主体的に選択して遊び出せる環境の用意をしていく
		試行錯誤をくり返しながら「もっとやってみよう」と夢中になって遊ぶ	遊びが広がるように様々な素材や道具を用意する事で、試したり、必要なものを考えたりする姿が見られ、遊びが翌日につながっている	A	A	・子どもにとって遊びは生活そのものであり、教育である。試したり失敗したりすることは大事。先生達は丁寧にそこを支えている	“やりたい”につながるような子どもの“今”を捉えた声かけや環境の工夫とタイミングの良い再構成で子ども達の遊びを支えていく
		自分の思いを伝えたり、友達の思いを聞きながら遊びを広げる	思いを伝えたり、友達の思いを聞いたりすることは、成長段階や個人差もあるが、自分なりの言葉で伝えようとし、友達とのやりとりが増えている	B	B	・友達とも関わり合いを持つ場面が意図的に設定されていて、その中で折り合いをつけることや協力することを学んでいると思う	伝えたいような心が動く体験を意識していく(本物にふれる)。保育者が一人一人の言葉を丁寧に聞き、友達ともつながるような言葉かけをしていく

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標		園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	各学年の遊び構想や環境図を共有し、ねらいを明確にしながらそれぞれの遊びを保障していく	毎日の打ち合わせでタイムリーな子どもの姿の共有、毎月の振り返りと環境図から各学年のねらいの共有ができ、遊びの保障につながった	A	A	・職員は、子ども一人一人の特性や様子に合わせて丁寧に関わっていた	発達を理解し、ねらいを明確にし、環境図作成・昼の打ち合わせを継続し、共通理解を図っていく	
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	家庭と連携し、個々の健康状態や生活リズムに合わせて、安心して園生活が送れるようにする	登降園時に様子を伝え合ったり、連絡帳を使い、子どもの状態を把握し、安心して過ごせるように遊びや休息など個々に合わせている	A	A	・子ども達がいつも楽しそうに遊んでいる姿が印象的だった	子どもの様子をよく見て、気になることは共有し、一人一人に応じた生活が送れるようにする	
	(3)環境を通して行う教育及び保育	わくわくを叶えるために、遊びの広がりや継続につながる環境の再考をする	保育者も好奇心を大切に子どものやりたい事、楽しんでいる事を見取り、環境を再考することができ、子どものわくわくにつながることができた	A	A	・季節に合わせて遊びの環境づくりを工夫しているところが子どもの興味や意欲を支えているのだと思う	子どもの姿や遊びから子どもの思いや興味を見取り、“やってみたい”と思えるような環境を作っていく。とっとき棚を活用していく	
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	園内外の点検、改善や事故、ケガの検証をし、安心安全な保育環境を整える	昼打ちでケガや事故の報告、原因と改善にむけての共有を行っている。早番や月末の点検で安全を確認している	A	A	・職員は、子ども一人一人の特性や様子に合わせて丁寧に関わっていた	園内外の点検・改善やケガの検証を行い、安心安全な保育環境を整える。定期的な訓練を通し職員、子ども共に防災意識を高める	
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	発達に合わせた衛生習慣を身につけ、感染拡大防止に努める	手洗い表を水道に貼ったり、繰り返し知らせていく事で、子ども自身が手洗い・うがいなど感染防止への意識をもって取り組んでいる	A	A	・子どもは毎日同じようなことをやっているように見えても螺旋階段上に次の階段に登っている。遊びの中身、充実度が変わっている	絵図や音楽を活用し、各歳児に合わせた衛生習慣が身につくようにする	
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	特別支援教育保育活動(ミッキー活動)の取組内容を改善し加配担当者会議(ミッキー会議)において支援の検討をしスキル向上を図る	発達や特性によりグループを分けることで、一人一人が安心しのびのびと活動することができた。ケース会議を行い、支援方法の検討と共有ができた	A	A	・ミッキー活動はとても良い。小さい時に健常児、障害児が隔てなく過ごす経験があることで、大人になっても社会的弱者の方を排除していくという視点にはならないだろう	ミッキー活動のねらいを明確にし、グループ分けや内容を検討していく。加配担当者だけでなく園全体での支援スキルの向上を図っていく	
5 組織運営	(1)組織体制の充実	同僚性を発揮し、分掌を中心にPDCAサイクルを継続的、安定的に実施する	会議や打ち合わせで進捗状況の共有、行事後のすみやかな反省ができた。リーダーを中心に企画・運営ができたが、分掌内での分担については検討していく	B	B	・打ち合わせ時間を15分と区切り、短い時間中で効率的に行っているところが良いと思う	分掌リーダーだけでなく、分掌担当で協力し計画的に園運営を行っていく	
6 研修	(1)研修体制の充実	研修部を中心に研修体制の強化を図り組織的な園内研修をすすめる、月の振り返りや公開保育の事後研修ごとに手立ての有効性の検証をしていく	週案の書式検討、個をクローズアップした月反省、昼に会議を行い、パート職員の参加ができるようにした事で保育の共有を図り、清水スタイルの土台の構築につながった	A	A	・日々保育ボードを見たり、子どもからの話を聞くと楽しく過ごせていたことがわかり成長も見られ安心した	わくわく研修を活用し、ファシリテーターの役割・付箋を使った話し合い・ドキュメンテーション作成など、研修の基礎固めを行っていく	
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	環境を工夫しタイミング良く再構成を行うことで一人一人の“やってみたい!”を支える	タイミングよく子どもの発達や興味に合わせて環境の再構成ができた。再構成により、遊びが続いたり興味が増したりすることが実感できた	A	A	・園長先生に小学校の評議員になってもらったり小学校とこども園との連携がとりやすくなった	子どもの興味把握、展開の予測をし、タイミングよく関り構成を工夫していく	
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	必要に応じて個人面談を取り入れたり、写真ボードで園の取り組みを可視化し、わかりやすく子どもの育ちや保育者の意図を発信する	個人面談で親の思いを聞いたり、園での様子を伝えたり、日々写真ボードで園での様子や育ちを発信している	A	A	・地域との連携については、近隣園との交流だけではなく、地域資源の活用を考えても良いと思う。地域の方に伝承遊びを教してもらったり散歩で地域の自然や文化に触れたりすることも子どもにとって良い経験になるのではないかと	写真を効果的に使ったタブレットでの発信をする。個々の様子や発達を面談や送迎時に伝えていく	
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	小学校との円滑な接続に向けて、アプローチカリキュラムの見直しや小学校との交流をすすめる	アプローチカリキュラムの活用、子ども同士の交流は難しかったが、職員が授業参観に行ったり、小学校の先生に公開保育に来て頂き意見交換ができた	B	B	・園長先生に小学校の評議員になってもらったり小学校とこども園との連携がとりやすくなった	子ども同士の交流、アプローチカリキュラムの作成、見直しを持ち、連携を深めていく	
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	近隣園との交流を通し、同じ地域の子ども同士のつながりを広げる	川原こども園・聖母保育園の年長児との交流を楽しみ、手紙のやり取りなど、子どもが主体的に関わっている	B	B	・園長先生に小学校の評議員になってもらったり小学校とこども園との連携がとりやすくなった	近隣園との交流の機会を計画的に作っていく(年に3回以上交流をもつ)地域資源(自然・文化・人材)を保育に取り入れ活かしていく	